

## ロールカーペット 注意事項

### 選択上のご注意

- 歩行マークは製品の耐久性を示す目安です。歩行マークの耐久性以上の用途での使用は避けて下さい。詳細は本カタログ517頁をご参照下さい。
- 繊維製品ですので、実際の厚みは表記と多少異なる事があります。ご了承下さい。
- 防汚マークは、製品の防汚性を示す目安です。用途に応じた防汚性のカーペットを選択して下さい。日常メンテナンスが美観の保持には最も効果的です。維持管理にご留意下さい。

防ダニ加工マークは、防ダニ加工処理の有無を示しています。しかし、**!** カーペットなど内装材によって完全な防ダニ効果を得る事は不可能です。日常メンテナンス・換気などに配慮して下さい。

- 淡色のカーペットの場合、汚れが目立ちやすくなります。カーペットの選定時には色についても充分ご配慮下さい。
- カットパイルは、パイルの方向が部分的に乱れ、雲状の色ムラのように見える事があります。この現象は、カットパイルの性質であり、品質上の欠陥ではありません。
- 織りカーペットの特性上、オーバーロック加工を施し、置敷きした場合、フレア(波打ち)が発生する事があります。ご了承下さい。
- ロールカーペットの特性上、オーバーロック加工を施し、置敷きした場合、伸縮する事があります。敷詰めをご検討の際には、壁際さっちりには納まらない事をご了承下さい。
- 無地のカーペット以外は、オーバーロック加工した場合に、特に横方向の辺と柄のラインが平行にならない事や辺の途中でラインが途切れたりする事があります。ご了承下さい。

高齢者対応施設・福祉施設・幼保施設などでは、転倒時のけがについての配慮が必要です。転倒時のけがの発生を考慮して、衝撃吸収性のよいカーペットを選択して下さい。なお、衝撃吸収性を得るには、フェルトグリッパー工法での施工が最も効果的です。

**!** ウールやアクリルなど紡績系使いのカーペットは遊び毛が出ます。遊び毛、毛玉の出ないカーペットを望まれる場合は、BCFナイロンなどフィラメント系を素材としたカーペットを選択して下さい。

- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認下さい。
- 本カタログの掲載写真の一部に合成写真を含みます。
- 本カタログ掲載の写真や画像は、現物と若干違いのある場合があります。ご採用の際には必ずサンプル帳などでご確認下さい。

### 施工上のご注意

#### ■ 施工前

- 施工の前に「東リ施工マニュアル」をご一読下さい。
- 梱包紙に記載されている品名・色番・ロット・数量を確認の上、施工を開始して下さい。同一床面上は、同ロットで仕上げて下さい。
- 下地は湿気のない平滑かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持して下さい。施工条件を順守しなかった場合、仕上りに悪い影響を与える可能性があります。
- 下地にワックス、グリス、油類、塗料などの汚れが残っていると、接着不良を発生させる可能性があります。完全に除去した上で施工を開始して下さい。
- 粉っぽい下地やグリッパーの釘がすぐに外れるような脆弱な下地は、下地補強剤で補強してから施工を開始して下さい。

#### ■ 施工中

- 製品の指定接着剤を使用して下さい。
- 巻縮みや巻癖が残っている場合があります。仮敷きしてから施工を開始して下さい。
- 施工の際は、カーペット裏面に印刷されている矢印を確認し、方向を揃えて施工して下さい。逆目に施工すると、色相が異なって見える事があります。

**!** ロールカーペットを施工する際、ジョイント部はシーミングする前に端部のほつれ防止の為に目止め処理を行って下さい。

- 柄ものカーペットを幅継ぎや丈継ぎする場合、全長が正確に柄マッチする位置で継いで下さい。
- ボーダーを施工する際は、原則として中央でカットし、左右のボーダーとしてご使用下さい。周囲にボーダーを巻く場合は、2辺のボーダーはフィールド部分と貼り方向が異なる結果となります。必ずしも、ボーダーのコーナー部の柄は合いません。
- ウールカーペットは光(日光、照明)により、比較的短時間で黄味が抜ける事があります(ステンド現象)。同居室に同ロットで施工する際も、同時施工して下さい。

**!** 施工中は、他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止して下さい。

- グリッパー工法で施工する際は、カーペットの厚さに応じたグリッパーを選択して下さい。ピンが短すぎるとカーペットが外れる可能性があります。また、施工面積に応じた延伸工具で約0.2~1.0%延伸して下さい。延伸が不充分の場合、施工後にたわみが発生するおそれがあります。

#### ■ 施工後

**!** 施工後、出入口・框回り部分のグリッパーのピン先をつぶして下さい。けがの原因となります。

- 養生シートで養生する場合に用いる感圧粘着テープの種類によっては、養生シートの上からパイルを変色させるものがあります。できるだけ感圧粘着テープの使用は避けて下さい。やむを得ず使用する場合は、事前に確認してからご使用下さい。変色の有無の確認については「東リ施工マニュアル」をご参照下さい。
- 施工後、台車や家具の往来によって過度の応力がかかると、グリッパーからカーペットが外れたり、カーペットの剥がれ・たわみ、全面接着工法でのカーペットのずれなどが発生する場合があります。重荷重のものを往来させる際には、合板などで保護して下さい。
- 引き渡し掃除の際、清掃業者に漂白剤やサビとり剤をごばさないように指導して下さい。パイルの変色を招きます。

**!** 施工後、残材等を廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託して下さい。梱包材などを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分して下さい。ロールカーペットを燃やすと有害ガスが発生します。

## ロールカーペット 注意事項

### メンテナンスならびに使用上のご注意

#### ■ メンテナンスのご注意

- 汚れが付着した際には、すぐに汚れが広がらないように注意して拭取って下さい。時間の経過と共に除去しにくくなります。なお、汚染物質によっては除去不可能なものもあります。
- 部分的にシミとなった汚れを除去する際は、汚れの原因に応じたシミとり剤や洗剤を使用して下さい。選択を誤ると、かえって変色などを招く可能性があります。洗剤などを残さないように注意して下さい。

美観の維持及びホコリ防止のため、歩行量に応じて電気掃除機あるいは真空掃除機による日常メンテナンスを行って下さい。特に、紡績糸使いのカーペットは、使用後しばらくの間遊び毛がでます。掃除機で吸い取って下さい。業務用スペースでは、日常メンテナンスと合わせて、用途に応じた定期的な集中メンテナンスをおすすめします。詳細は本カタログ533頁をご参照下さい。

- ブラシ付き真空掃除機およびロボット掃除機を使用する際はパイルを損傷する可能性がありますのでご注意ください。なお、ロボット掃除機の使用に関しては各家電メーカーの使用上の注意をご確認下さい。
- カーペットを丸ごとクリーニングする事はできません。水洗いやドライクリーニングをすると、パイル抜けや裏張り材剥がれ、波打ち、寸法変化などの原因となります。

#### ■ 使用上のご注意

- カーペットは熱によって変退色・溶融する可能性があります。たばこや、火花の飛び散りなどは避けて下さい。
- 化学薬品や強い作用を持つ洗剤、漂白剤などにより、変退色や変質を招く可能性があります。こぼさないようにして下さい。
- 殺虫剤など害虫駆除剤の中にはパイルを変色させる可能性のあるものがあります。事前に駆除業者にご確認下さい。
- 室内の湿度が低いと静電気が発生しやすくなります。加湿器などを使って湿度調整を心がけて下さい。
- 直射日光など、環境条件によって変退色の可能性があります。カーテン・ブラインドなどで日よけをして下さい。
- ある種の家具の脚ゴムやゴムマットなどのゴム製品、塗料、防腐剤、防虫剤などによって汚染され変退色を招く可能性があります。これらに直接触れないようにして下さい。
- 土砂の持込みなどが予想される場所では、泥よけマットなどを出入口に設置し、室内に土砂を持込まない工夫をして下さい。
- パイルがホツレた場合、ホツレの伝線を防ぐためにもすぐにハサミでカットして下さい。
- ハイヒールや家具などの局部荷重により、へこみ跡が残る可能性があります。
- コンクリート壁面を流れ落ちる結露水は、パイルを変色させたりカビを発生させる原因となります。換気をよくするなど、結露を発生させない工夫をして下さい。

カーペットのたわみ、めくれ、ジョイントのホツレなどが生じた場合は、即座に補修して下さい。放置しておくと、全体に影響が及び、美観を損なうほか、転倒事故を招く可能性があります。特に階段部でのたわみなどは、つまずきによる転落事故につながりやすく、注意が必要です。

- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけて下さい。

### ハノーク カーペットのご注意

#### ■ 選択上のご注意

- 屋根のない部位でのご使用はお避け下さい。
- 下地から絶えず湿気の上昇が予想される場所では使用を避けて下さい。接着不良や臭気が発生する事があります。

施工前に必ず高周波水分計「HI-500、HI-520、HI-520-2型」で水分指標を確認し、水分指標が高い場合は、充分乾燥させて下さい。

水・砂・紫外線・重量物・汚染物質・化学薬品などの影響で、床材自体の変質・変退色や、施工後の膨れ・剥がれ・目地スキなどを招く場合があります。充分ご注意ください。剥がれ、反り、膨れなどが生じた場合は、即座に補修して下さい。放置しておくと全体に影響が及び、美観を損なうほか、転倒事故の原因となります。

- 材料が硬いため、垂直面（立上げ）施工はできません。ご了承ください。

#### ■ メンテナンスならびに使用上のご注意

美観の維持及びホコリ防止のため、歩行量に応じて電気掃除機あるいは真空掃除機による日常メンテナンスを行って下さい。業務用スペースでは、日常メンテナンスと併せて、用途に応じた定期的な集中メンテナンスをおすすめします。

- ブラシ付き真空掃除機を使用する際はパイルを損傷する可能性がありますのでご注意ください。
- ポリッシャーはカーペット用を使用して下さい。繊維パッドは硬いブラシの使用を避けてナイロンブラシを使用して下さい。

- 汚れが付着した際には、すぐに汚れが広がらないように注意して拭取って下さい。時間の経過とともに除去しにくくなります。なお、汚染物質によっては除去不可能なものもあります。
- 部分的にシミとなった汚れを除去する際は、汚れの原因に応じたシミとり剤や中性洗剤などを使用して下さい。選択を誤ると、かえって変色などを招く可能性があります。
- 接着剤が充分硬化するまでは、直射日光や冷暖房による急激な温度変化、水洗い、重量物やキャスター椅子などによるしごきなどは避けて下さい。突上げ・目地スキ・剥がれなどを発生させる可能性があります。
- 化学薬品や強い作用を持つ洗剤、漂白剤等により、変退色や変質を招く可能性があります。こぼさないようにして下さい。
- ある種の家具の脚ゴムやゴムマットなどのゴム製品、塗料、防腐剤防虫剤などによって汚染され変退色を招く可能性があります。これらに直接触れないようにして下さい。
- 長時間の直射日光による変退色、常時水分・湿気のある状態や、長期間使用しない室内での結露によるカビや異臭の発生、床材の剥がれ・反り・膨れ・突上げの可能性があります。日よけや排水、換気を心がけて下さい。
- ハイヒールや家具などの局部荷重により、へこみ跡が残る可能性があります。
- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけて下さい。